



わだしいすき

第42号 平成25年2月14日発行

発行者：NPO法人和田地域づくり協議会『WAO!』

連絡先：住所 南房総市和田町仁我浦206 和田地域センター内

電話 0470-47-3427

全身骨格が姿を現す



組み立てられた全身骨格

すでに新聞やテレビのニュースでご存じと思いますが、和田コミュニティセンターの隣に、シロナガスクジラの全身骨格が組み立てられました。この全身骨格は日本に3体しか作ることが許されず、すでに山口県下関市と和歌山県大地町に1体ずつあります。そしてもう1体を、現在も捕鯨漁が行われている和田に設置することができました。

この骨格は、シロナガスクジラの骨格を精密に複製し、長期の野外展示に耐えられるよう強化プラスチックで作リウレタン塗装されたものです。原骨格はノルウェー北部のフィンマルク地方で捕獲されたものだそうです。大きさ等については、次のようになっています。

原骨格推定体長：26m

推定体重：106トン

性別：雌（メス）



この後、柵を作ったり芝生を張ったりするなどの外構工事を行い、3月中には全身骨格の下を通り抜けられるようになります。「道の駅和田浦 WA・O！」へ来て、ぜひその大きさを実感してください。

和田の地域防災を考える会

1月26日に、和田・南三原地区合同の地域福祉フォーラム防災講演会が行われました。この講演会では、防災システム研究所の山村先生が講演され、防災に関する心構えや行動の在り方について理解を深めることができました。

今回、和田地域づくり協議会・安心安全部会では、和田地域を襲った過去の大きな地震を参考に、被害が甚大である中で「いかに生き延びるか」を、図の上で訓練する講座を行います。参加費は無料ですので、ふるってご参加ください。

1. 日時—平成25年2月23日（土） 受付9：30～

第1部 講演会 10：00～

元禄大地震や関東大震災に関する、和田地域の被害状況を中心とした講演会で、講師は前南房総市教育長・青木嘉男氏です。

第2部 ワークショップ 11：00～

震度6強クラスの地震が発生し津波警報が発令されたとの想定の下、私たちはどのように行動し生き延びるかを探ります。いわゆる図上訓練です。



2. 会場—和田コミュニティセンター 3階市民ホール

大災害では日頃の心構えと訓練が大切です。今回の考える会をよい機会と捉え、多くの方々が参加してくれることを期待します。班を作る関係で、事前の申し込みをお願いします。

申し込み先は、和田地域づくり協議会 TEL47-3427です。

水仙の花が咲きました

サーフィンプロジェクトの会員が、白渚海岸のサイクリングロード沿い（サーフ橋付近）の県有地に植えた水仙が、ようやく見ごろを迎えました。5月6日に上三原の遊々里山（ゆうゆうさとやま）さんの協力を得て、約200株掘り起こし移植したものです。

今年は寒さが厳しいため、開花が遅れていましたが、1ヶ月ほど前から少しずつ咲き始めました。2月中旬までは見られると思います。お近くに行った際は、ぜひ足を止めていただけたらと思います。



寒風の中に咲く水仙

「道の駅 和田浦 WA・O！」がオープンして、3ヶ月がたちました。道の駅は、和田地域を活性化させる施設、情報を発信させる施設として建てられています。この施設を利用して、いろいろなイベントが計画され始めましたので、ご紹介します。和田地域づくり協議会は、これらのイベントを後援しています。

I. 共歓ハイキング

1. 日時 3月3日（日）9:00～14:00
2. コース 道の駅 WA・O！→→小浦・金比羅様→→真浦天畑で花摘み→→威徳院→→小浦・お稲荷様、鯨解体場→→道の駅 WA・O！
3. 参加費 1500円（昼食、保険代等）
4. 問い合わせ先 47-3474 市観光協会和田支部
5. 申込期限 2月25日まで

II. INGミニライブ

1. 日時 3月10日（日）お昼頃に2回のライブを行います。
2. 場所 和田コミュニティセンター
3. 内容 ING（アイエヌジー）によるミニライブです。
INGは、館山市在住の遠藤 園さんと高知市在住の江口美香さんの、女性2人のアマチュアフォークグループです。
4. 入場料 無料

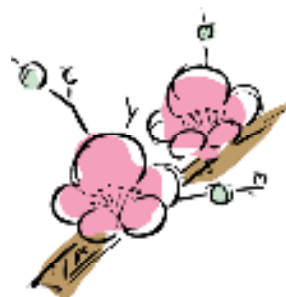
和田のボランティア団体

和田地区でボランティア活動に取り組んでいる方々を紹介しています。今号は次の団体です。

和田地区小域ボランティア

和田地区小域ボランティアの皆さんの取材に、和田コミュニティセンターの生きがい棟に伺いました。この団体は総勢23名（65才～85才）で、発足から既に20数年経つそうです。主な活動としては和田地区の独居老人への配食サービス、幼稚園生や小学生との交流活動、独居老人を対象にした視察研修などです。

取材に伺った日は、和田地区の独居老人の希望者の皆さんに配食サービスをする日でした。そしてこの日が、和田コミセン内にできた生きがい棟を使って初めて調理する日でした。この日の当番8名が（総勢23名が3グループに分かれる）、おそろいの格子柄のエプロンと三角巾で身を固め、用意した材料を手際よく調理していました。この日の献立は、肉じゃが、さつまいもの甘煮、キャベツ入りの玉子焼きなど健康に配慮したものでした。そして、調理する合間合間には、楽しそうな会話が聞こえてきました。



盛りつけの様子

今年度の視察研修は、横浜市の防災センターと中華街での食事だったそうです。一人では行きにくい所や、和田地区では味わえない場所へ出かけ、一人暮らしの皆さんの気分転換ができるように心がけているそうです。きっと来年度も、楽しい研修を企画してくれることでしょう。

和田小域ボランティアでは、一緒に気持ちよい汗を流す方を募集しているとのことでした。